生涯学習だより

問 教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

中央自治会の紹介

未来への課題

中央自治会長 辻村 進一

中央自治会は、地域内に町役場・生涯学習センター・延命寺などの公共施設があり、面積の割には80余りと世帯数の少ない自治会です。

地域集会施設を持たない中央では、かねてから町のご理解のもと生涯学習センターの施設を中心に活動を展開しております。

センターでの活動は、役員会・総会・親睦交流・防災訓練・各種勉強会などやふれあい会の拠点になっており、また災害時の避難所にもなります。

納涼夏祭りは、今年も紙芝居や盆踊り・ハワイアン演奏・フラダンスを楽しみ135人の参加で大いににぎわいました。正にセンターは、中央には無くてはならない誠に有り難い施設です。

そこで中央では、町やセンターに「感謝する」意味から花壇やプランターでセンター利用者・役場にお見えになる方々に四季のお花を楽しんでいただく活動を行っています。

その他活動では、寄ロウバイ・松田山の花を楽しむハイキング、昨年は町指定史跡巡りウォークを行ったりもしました。今年は秋に大井町ビオトピアへの未病体験、冬には餅つき大会と新たな事業にも挑戦する計画です。

自治会は担い手不足で継続が難しい中ではありますが、自治会活動を生涯学習の場として、地域の未来への課題として取り組んでおります。

松田文化財探訪

松田の災害史 その6

文化財保護委員 桐生 海正

三角土手にある川丈六地蔵

宝永の富士山噴火で火山灰の被害を受けた村々には、その後も試練が立ちはだかりました。頻発した河川氾濫です。雨水や残土の投棄により、火山灰が河川に流れ込み、川床が上昇したことが主な要因だと考えられています。

宝永五(1708)年には、南関東一帯で大雨となり、岩流瀬土手(山北町)や大口土手(南足柄市)が決壊し、足柄平野西部の村々に大きな被害をもたらしました。その後、大口土手はいったん直されますが、正徳元(1711)年に再び決壊しました。これ以降、酒匂川は大きく流路を変え、今では想像もできませんが、大口から壗下、竹松、塚原、沼田(以上、南足柄市)、穴部(小田原市)のあたりを流れる河川となりました。

この決壊した大口土手を再建したのが、八代将軍徳川吉宗の下、この地の管理を任された代官田中休愚でした。田中は享保一一(1726)年に見事土手の締め切りに成功し、酒匂川を元の流路に戻しました。

この頃、田中は川沿いに治水を願って「川丈六地蔵」を建立したと伝わっています。蓮華寺(小田原市)の僧が大口で六地蔵を開眼し、岩流瀬、大口、吉田島、金手、多古、飯泉の急所に置かれました。この内の一つが現在も三角堤公園の一角にあります。

なお、三角土手が築かれたのは、享保一九(1734)年の水害の時だと考えられています。

三角土手にある川丈六地蔵(筆者撮影)